令和５年度夏季研修会について　報告

令和５年８月１日（火）　　本校体育館

今年は、愛知県総合教育センターから荒井麻里先生をお招きし、「身体の使い方がうまくいかない子、不器用な子への支援方法」というテーマで講演をしていただきました。

荒井先生には、発達性協調運動症（DCD）について、理解する際に必要なポイントや、ASD 傾向・ADHD 傾向・知的障害と併存している子への支援アプローチのポイントなど、具体的な事例を交えながら専門的な話をしていただきました。また、DCD は、運動面に限らず心身の健康や対人関係など、様々な心理社会的な問題と関連しているため、自己肯定感や自尊感情の低下などから二次的な情緒や行動の問題が起きやすく、年齢が思春期・青年期と年齢が上がるほど複雑になる傾向があることを教えていただきました。また、軍手を着用した状態で折り紙や書字の体験を行い、協調運動に困難さのある子どもの困り感を知ることができ、子どもの立場や気持ちに寄り添った支援の方法を考えるきっかけとなりました。

終わりに、DCD の子どもたちが等しく教育を受けるためには、便利グッズを上手に活用するなど、スタートラインを同じにする「公正・公平」な環境が必要であるといった話をしていただき、そのためには「正しい理解」「気付きと共感」「チームで支援」という、教師の基本的な心構えと姿勢が大切であるということを改めて学ぶことができました。

参加者アンケートからは

- 体験もグループワークも解説もあり、いろいろな形で学べてとても楽しかったです。
- これから教師として自分が児童にしたいこと、保護者に寄り添いたいことが、具体的に浮かんできました。あたたかい先生の語りにも安心して学ぶことができました。
- 「あ～あの場面」と思うことがありました。課題・目標をもっと話し合いながら、考え直していきたいと思います。

などの声が寄せられました。

また、会場内では、「教材教具の紹介」も行い、実際に本校で活用している教材を手に取って見ていただきました。

- 手作りや市販の物など、いろいろな種類の教材・教具があり、とても参考になりました。
- 知らない教材ばかりで、大変助かりました。参考書も、この夏を利用して読みたいです。

などの声をいただきました。

暑い中、地域の小・中学校の先生方や福祉関係の皆様にもたくさん参加していただきました。ありがとうございました。